

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
列1	列2	列3
単著	「イエメン 忘れられし者の存在証明(下)」『地平』8月号 pp.191-197	2024
単著	「イエメン 忘れられし者の存在証明(上)」『地平』創刊号 pp.223-228	2024
論文(共著)	「置き去りにされる開発協力の本来の目的」『国際開発ジャーナル』(808) 8-10	2024
論文(単著)	”How to change the hierarchy of knowledge production on development」『国際開発研究』32(3) 35-42	2024
論文(単著)	「SDGs時代の社会的責任と向き合う:企業と市民社会の「対話の作法」を共創しよう」『国際開発ジャーナル』(798) 8-9	2023
監修	『まんがとクイズでよくわかる!なるほど『SDGs』ワン・パブリッシング	2023
書籍(編著)	「はじめに—開発社会学の視点から戦後を語る意味」「第1章 高度成長を用意したもの——映画『家族』の風景を理解する」「終章 占領政策を開発援助として見る」「あとがき」『戦後日本の開発経験—高度成長の礎となった「炭鉱・農村・公衆衛生」』明石書店	2023
書籍(共著)	藤田雅美/佐藤寛/小松愛子「移民・外国人労働者とSDGs—新たな連帯の構築に向かって」野田真里編『SDGsを問い直す—ポスト/ウィズ/コロナと人間の安全保障』法律文化社	2023
論文	Hiroshi Kan Sato, ”A Possibility of Development Studies from Asia”, 『国際開発研究』31(3)p81	2023
書評	「書評:杉田映理・新本万里子編『月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援—』」『国際開発研究』 31(2) pp.101-105	2023
書評	「書評:Sato Mine, Nobuo Sayanagi and Toru Yanagihara, Empowerment Through Agency Enhancement: An Interdisciplinary Exploration」『国際開発研究』 31(2) pp.99-100	2022
連載	先進事例に学ぶ!SDGs推進に参画する経営『OWNERSi』(住友生命保険相互会社法人マーケット推進室)2022年4月号～	2022
	「イエメン 作り上げられた空洞国家」『世界』(956) 10-11	2022
書籍(論文)	「With コロナ時代のサプライチェーンマネジメントとSDGs—国際協力と日本の役割—」東洋大学国際共生社会研究センター(監修)『パンデミック時代のSDGsと国際貢献』朝倉書店	2021
書籍(共著)	Hiroshi Kan SATO and Akiko Hiratsuka-Sasaki, ”Japanese Development Aid and Global Power” in Frank N. PIEKE and Koichi IWABUCHI eds. <i>Global East Asia Into the Twenty-First Century</i> (chapter 4) pp.52-65, University of California Press	2021
書籍(編著)	「序章:コンビニというメガネを通してアジアを覗く」「第12章ベトナムのコンビニ利用者像[共著]」「終章「日本型」コンビニから「アジア型」コンビニへ」『コンビニからアジアを覗く』日本評論社	2021
ウェブ記事	「最悪の人道危機・イエメン(後編)無益な空爆の継続と国民の窮乏」中東協力センターニュース2021(5月号)1-14	2021
ウェブ記事	「最悪の人道危機・イエメン(前編)アラブの春から空爆開始まで」中東協力センターニュース 2021年(4月号) 1-9	2021
	「求められる「紛争下の開発」モデル」『国際開発ジャーナル』(759)	2020
	「イエメン国民への愚弄をやめよ:最悪の人道危機の原因と解決への道筋」『世界』(918)43-53	2019
書籍(監修)	『60分でわかる!SDGs 超入門』技術評論社	2019
	「はじめに 簡易プロセスとは ~簡易プロセスハンドブック作成に寄せて~」『簡易プロジェクト・エスノグラフィー作成ハンドブック(初版)』 https://www.jica.go.jp/Resource/activities/evaluation/ku57pq00001zf034-att/ethnography_handbook.pdf	2018
書籍(論文)	「SDGs時代のフェアトレードと倫理的貿易」長坂寿久編『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開—SDGs時代に向けて』明石書店	2018
書籍(論文)	「生活改良普及員による健康改善」中村安秀編『地域保健の原点を探る—戦後日本の事例から学ぶプライマリヘルスケア』杏林書院	2018
	「「経済協力研究と社会開発研究」(特集:変わる世界、変わる研究)」『アジア研ワールド・トレンド』(269)46-47	2018
	「鼎談:現場では何が問題となっているのか……青柳恵太郎×佐藤寛×高崎善人」特集「いま知りたい開発経済学」『経済セミナー』(703)日本評論社	2018
	「特集にあたって—脇役に光をあてる—(特集:クルド—国なき民族の生存戦略—)」『アジア研ワールド・トレンド』(266)2	2017
	「忘れられた戦争:イエメンの人々を襲う人道的崩壊」『世界』(898)196-206	2017

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
	「世界の潮 人道危機に直面するイエメン」『世界』(890)20-24	2017
書籍(監訳)	『貧しい人を助ける理由』(デイビッド・ヒューム著)日本評論社	2017
	「生活改良普及員と健康改善(特集 戦後の地域保健発展の温故知新:貧しさの中で工夫した先人の知恵に学ぶ)『保健の科学』58(12)808-812	2016
	「日本の発展と二度目の東京五輪—途上国にとっての五輪(特集 南米初の五輪を開催するブラジル—五輪開催と国の発展)」 『アジア研ワールド・トレンド』(250)32-35	2016
	「特集にあたって—忘れられた中東の貧困途上国—(特集 イエメン—忘れ去られた「アラブの春」の落とし子)『アジア研ワールド・トレンド』(248)2-3	2016
	「連邦制という実験の意味(特集 イエメン—忘れ去られた「アラブの春」の落とし子)『アジア研ワールド・トレンド』(248)34-37	2016
	「コラム:サッカー家の父娘(特集 イエメン—忘れ去られた「アラブの春」の落とし子)『アジア研ワールド・トレンド』(248)38	2016
	「MDGs後の「開発とビジネス」(特集 ミレニアム開発目標を超えて:MDGsからSDGsへ)—(15年間の新機軸)『アジア研ワールド・トレンド』(232)12-15	2015
書籍(編著)	『開発社会学を学ぶ人のための60冊』明石書店	2015
書籍(監修)	『国際協力用語集(第4版)』国際開発ジャーナル社	2014
	「特集にあたって—ドーハラウンドはLDCに何をもたらしたのか—(特集 WTOドーハラウンドは後発発展途上国に何をもたらしたか)『アジア研ワールド・トレンド』(225)2-3	2014
	「倫理的貿易における消費者と企業の役割(特集 新興国・途上国におけるビジネスと人権:国家・企業・市民として)『アジア研ワールド・トレンド』(223)30-33	2014
編著	『WTOドーハラウンドの歴史的意義』アジア経済研究所	2013
	「BOPビジネス 4つの誤解 補助金・慈善の発想覆せ」『Wedge』25(8)56-58	2013
	「鼎談 アフリカの開発支援を考える(特集 アフリカ開発支援:新たな糸口を探る)浅沼 修一, 佐藤 寛, 田中 樹」『Seeder』(8)56-67	2013
ウェブ記事	Toward an inclusive and a little bit ethical world trading system: listening to the voices of the people in LDCs, アジア経済研究所	2013
書籍(論文)	「第7章:綱渡りの暫定政権—イエメン—」『中東地域秩序の行方:「アラブの春」と中東諸国の対外政策』アジア経済研究所	2013
書籍(編著)	“The Japanese Experience and Endogenous Development” in Toyoda, T. eds., <i>Economic and policy lessons from Japan to developing countries</i> , Palgrave Macmillan	2012
	「倫理的消費と倫理的貿易:フェアトレードの先にあるもの(特集 消費と倫理の現在)『家計経済研究』(95)16-25	2012
	「イエメン—邪魔をしない、という国際社会の役割(特集 「アラブの春」と中東政治の構造変容)『アジア研ワールド・トレンド』(196)34-37	2012
共著	「特集 開発/発展をめぐる社会学の位相—特集によせて」『国際開発研究』21(1.2)1-5	2012
ウェブ記事	「イエメンはどこに行く」アジア経済研究所	2011
書籍(論文)	「日本の開発経験と内発的発展論」『開発を問い直す:転換する世界と日本の国際協力』日本評論社	2011
共著	「エスノグラフィーで読む 人々がつなぐ国際協力(第4回)エジプトからサブサハラへ—広がる協力の輪」松見 靖子, 佐藤 寛『国際開発ジャーナル』(660)48-51	2011
共著	「エスノグラフィーで読む 人々がつなぐ国際協力(第3回)途上国協力の巻き込まれて」『国際開発ジャーナル』松見 靖子, 佐藤 寛(659)58-61	2011
	「外国から見た震災—なぜ日本に援助するのか(特集 東日本大震災と国際協力—(国際協力はどう変わるか))」『アジア研ワールド・トレンド』(192)22-25	2011
	「「寝るなら行くな」の車窓学(フィールドワーク心得帖 第11回)『アジア研ワールド・トレンド』(185)54-55	2011
書籍(編著)	「第1章グローバル化する世界とフェアトレード」『結語:フェアトレードは貧困削減に結びつくのか』『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社	2011
書籍(編著)	「はじめに」第1章:開発援助と人類学の関係』『開発援助と人類学』明石書店	2011
書籍(分担執筆)	「開発への多様な切り口~道場破りを歓迎する学会へ」国際開発学会編『貧困のない世界をめざして』同友館	2010

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
	「自転車社会は到来するのか(異文化言い分EVEN)」『アジア研ワールド・トレンド』(182)54	2010
	『開発援助を社会的に分析するための10の切り口』に関する資料集 アジア経済研究所	2010
	「実務と研究をつなぐ橋(特集 国際協力と研究者—現場と研究室の深い河)」『アジア研ワールド・トレンド』(180) 8-11	2010
	「世界が注目するBOPビジネス最新事情—佐藤寛氏(特集 勃興するBOPビジネス)」『JMAマネジメントレビュー』16(7)12-15	2010
ウェブ記事	「BOPビジネスの可能性」『アジアの出来事』アジア経済研究所1-5	2010
	「アラブ源流国家、歴史つらめく「妥協」原則(特集 イエメン全容)」『季刊アラブ』(132)4-6	2010
編著	『アフリカBOPビジネス』 ジェトロ	2010
	「特集にあたって(特集 BOPビジネスの可能性)」『アジア研ワールド・トレンド』(171)2-5	2009
	「特集にあたって(特集 フェアトレードと貧困削減)」『アジア研ワールド・トレンド』(163)2-5	2009
	「フェアトレード研究のためのブックレビュー(特集 フェアトレードと貧困削減)」『アジア研ワールド・トレンド』(163)39-42	2009
ウェブ記事	「企業のフェアトレード戦略」『アジアの出来事』アジア経済研究所1-5	2009
ウェブ記事	「フェアトレードのマーケティング」『アジアの出来事』アジア経済研究所1-4	2008
ウェブ記事	「フェアトレードが熱い」『アジアの出来事』アジア経済研究所1-4	2008
共著	「イエメン共和国タイズ州における栄養改善プログラムの現状と課題」野村真利香, DHEKRA Annuzaili, 佐藤寛, 丸井英二 <i>Tropical Medicine and Health 2008</i> (プログラム抄録集) 142	2008
	「もう一つの社会資本=社会関係資本(ソーシャルキャピタル)と日本の国際協力—日本の「開発学」— (特集 国際協力の未来~豊かな国際社会の形成を目指して)」『Civil Engineering Consultant』(240)036-039	2008
	「世界の国際開発協力の潮流と日本の貢献—「われわれ」と「彼ら」の関係性(特集 人間文化研究機構 第7回公開講演会・シンポジウム 国立民族学博物館 開館30周年記念 国際開発協力へのまなざし—実践とフィールドワーク)」『人間文化』(7)6-16	2008
書籍(編著)	「まえがき」第8章 農村開発における「モデル」アプローチの意味—ライブリフッド・アプローチと生活改善アプローチ—『開発と農村』アジア経済研究所	2008
	「パネルディスカッション(特集 国際シンポジウム—貧困削減を越えて—低所得国のための開発戦略)」 佐藤 寛, William R. Easterly, Shahid Yusuf, 山形 辰史, Simeen Mahmud, 平野 克己, 加藤 宏『アジア研ワールド・トレンド』(152)21-23	2008
書籍(編著)	「特集にあたって(特集 開発援助と人類学)」『アジア研ワールド・トレンド』(151)2-3	2008
	「序章 社会開発に込められる多様な期待」第9章 社会開発研究の課題—介入、計画、評価と社会の固有性『テキスト社会開発』日本評論社	2007
	「農村開発プロジェクトの課題—生産と生活をいかにつなげるか(特集 農村開発と農村研究—パートII 途上国の農村研究と農村開発)」 『アジア研ワールド・トレンド』(129)32-35	2006
	「文化人類学は医療協力の役に立つのか?国際開発学の視点から」 <i>Tropical Medicine and Health</i> (34)(増刊号) 78	2006
	「座談会 貧困削減をこえて(特集 貧困問題研究の新展開) 佐藤 仁, 佐藤 寛, 下村 恭民」『Eco-forum』24(3)27-50	2006
	「解題(農業開発における社会関係資本の役割—スリランカ, ガル・オヤ農民組織の生産性)のびゆく農業(970)2-6	2006
	健康開発と社会人類学・医療人類学 松山 章子, 岸上 伸啓, 山本 太郎, 池田 満穂, 武井 秀夫, 杉田 映理, 尾崎 啓子, 佐藤 寛, 門司 和彦 [他] 『長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集』(18)33-34	2006
	第1章 総論「社会調査」の考え方「社会調査はなぜ必要か」JICAにおける社会調査の活用状況」 第2章 事例分析「農業・農村開発」『社会調査の事業への活用:使おう! 社会調査』JICA国際協力総合研修所 https://www.jica.go.jp/Resource/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200512_aid_00.pdf	2005
書籍(論文)	“‘Livelihood Improvement’ in Postwar Japan: Its Relevance for Rural Development Today”, in Murayama, M., ed. <i>Gender and Development: The Japanese Experience in Comparative Perspective</i> , Palgrave Macmillan	2005

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
	「参加型農村開発と「よそ者」の役割」『開発学研究』16(1)2-6	2005
	「特別記事 座談会 戦後の日本の経験を国際協力に活用する」中村 安秀, 石川 信克, 佐藤 寛『公衆衛生』69(7)561-568	2005
	「何が起ると「エンパワメント」は達成されるのか(特集:エンパワメント再考)」『アジア研ワールド・トレンド』(120)38-39	2005
	「特集にあたって—エンパワメントをめぐる論点(特集:エンパワメント再考)」『アジア研ワールド・トレンド』(120)2-3	2005
	「貧困の民俗学—日本の貧困と貧困対策史(特集:「貧困」で学ぶ開発—諸学の協働)」『アジア研ワールド・トレンド』(117) 4-7	2005
書籍(単著)	『開発援助の社会学』世界思想社	2005
書籍(編著)	「序章:生活のなかの開発、開発のなかの生活」『生活と開発—シリーズ国際開発第3巻』日本評論社	2005
書籍(編著)	「第1章:援助におけるエンパワメント概念の含意」「第9章:計画的エンパワメントは可能か」『援助とエンパワメント』アジア経済研究所	2005
編著	『季刊旅行人 特集:イエメン完全保存版』(『旅行人』146号)	2005
	「生活改善運動とジェンダー(特集 ジェンダーと開発—日本の経験と開発途上国)」『アジア研ワールド・トレンド』10(8)12-15	2004
	「忘れられた日本の貧困削減経験—農村生活改善運動の現代的意味(特集 貧困への挑戦)」『Eco-forum』22(4)4-15	2004
書籍(編著)	「はじめに」「第1章:住民組織化をなぜ問題にするのか」『援助と住民組織化』アジア経済研究所	2004
	「紹介 渡辺利夫・三浦有史著『ODA(政府開発援助)—日本に何ができるか』」『アジア経済』45(6)86	2004
書籍(分担執筆)	「社交の道具としてのカート」高田公理他編『嗜好品の文化人類学』講談社	2004
	「グローバリゼーションとアラビアンナイトの世界」『地域開発ニュース』(283)	2004
書籍(分担執筆)	「第6章 近代化論は超えられるのか:内発的発展論の可能性」「第5章 近代化論への挑戦」「第4章 開発と近代化論:単線的発展論の来歴」松岡俊二編『国際開発研究』	2004
	“Chapter 1 Growth with Equity through Livelihood Improvement Program” in <i>Globalization Carried on Human Feet</i> , 「1」-13、アジア経済研究所	2003
	「生活改善と農村女性の生活記録」村山真弓編『日本における開発とジェンダー:途上国研究のための文献解題』アジア経済研究所調査研究報告書	2003
	「解説「プロジェクト・エスノグラフィー」第一号」小國和子『村落開発支援は誰のためか—インドネシアの参加型開発協力に見る理論と実践』明石書店	2003
書籍(編著)	「貧困削減・社会開発の視点からみた「戦後」(特集 貧困削減と日本の経験)」『アジア研ワールド・トレンド』(99)	2003
	「はじめに」「第1章:参加型開発の「再検討」」『参加型開発の再検討』アジア経済研究所	2003
	「社会開発と『普及』」『アジア研ワールド・トレンド』(No.93)pp.55-56	2003
連載	連載「途上国」ニッポンの知恵」『(月刊)クロスロード』2003/4~2005/3	2003
書籍(分担執筆)	「オイスカ型援助とODA」国際開発ジャーナル社編『NGOによる「人づくり」協力』(財)オイスカ	2002
	「紹介 恩田守雄著『開発社会学—理論と実践』」『アジア経済』(43) 8-80	2002
論文	「戦後日本の農村開発経験—日本型マルチセクターアプローチ(特集 戦後日本の農村開発経験)」『国際開発研究』11(2)5-24	2002
書籍(編著)	「はじめに:なぜ「社会関係資本」に注目するのか」「序章 社会関係資本概念の有用性と限界」「第9章:社会関係資本の操作性—よそ者は信頼を作り出せるか」『援助と社会関係資本』アジア経済研究所(国際開発学会賞受賞)	2002
(共著)	「第4章 今後に向けて」「第2章 開発援助とソーシャル・キャピタル」「第1章 ソーシャル・キャピタルとは何か」JICA国際協力総合研修所編『ソーシャル・キャピタルと国際協力』JICA国際協力総合研修所	2002
	「彼らの」民主主義と「彼らの」開発(特集:現代のイスラームを知る)『国際協力フロンティア』	2002
書籍(論文)	「「経済開発」と「社会開発」」「戦後日本の生活改善運動」菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社	2001
共編著	「戦後日本の生活改善運動と途上国の農村開発・研究基礎資料(1)」佐藤寛・安藤和雄編	2001
連載	連載「技術は役に立つのか」『月刊林業技術』2001/6~2003/3(18回)日本林業技術協会	2001
書籍(単著)	『イエメンものづくり』アジア経済研究所	2001

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
	“Social development under the structural adjustment policy in Yemen : quest for community participation” M.E.S series No.47 アジア経済研究所	2000
書籍(分担執筆)	「第5章 アラブの調査・開発と社会変化—イエメンを事例として」奥山真知・加納勝弘編著『中東・イスラム社会研究の理論と技法』文化書房博文社	2000
	「トレンド・レポート イエメン—アデン再考」『アジ研ワールド・トレンド』6(3)28-30	2000
	「知っているようで知らないアラブのこと ここが知りたい! アラブ世界の不思議(特集 中東と出会う) 鰐淵 和雄, 後藤 明, 佐藤 寛」『国際協力』(539)19-21	2000
論文(共著)	「イエメン・サナア旧市街における歴史的居住環境の保全に関する研究」吉田正二 et als.,『住宅総合研究財団研究年報』(25)13-24	1999
	「“インド洋の忘れ物”ソコトラ島訪問記—イエメン政府巡回医療団に参加して」『季刊アラブ』(91)26-28	1999
	「フォト・エッセイ イエメン/インド洋の忘れもの—ソコトラ」『アジ研ワールド・トレンド』5(10)28-31	1999
	「トレンド・レポート 参加型開発と村人の戦略—イエメンの住民保健委員会」『アジ研ワールド・トレンド』(49)31-33	1999
論文	「開発援助をめぐる「ドナーの戦略」と「村人の戦略」」『現代の中東』(27)42-64	1999
書籍(分担執筆)	「世界最古の摩天楼都市」佐藤浩司編『住まいにつどう』学芸出版社	1999
	「エリトリア・エチオピア紛争~もう一つの解釈」『アジ研ワールドトレンド』(43)pp.42-45	1999
書籍(分担執筆)	「取り残されたアラブ~イエメン人」大塚和夫編『アジア読本・アラブ』河出書房新社	1998
書籍(共訳)	開発援助と人類学勉強会訳『開発は誰のために—援助の社会学・人類学』(マイケル・チェルネア編)日本林業技術協会	1998
論文	「日本のODAの存在意義」『国際開発研究』7(2)9-25	1998
	「開発援助と「社会学者・人類学者」の微妙な関係」『FASIDニュース』(40)国際開発高等教育機構	1998
書籍(編著)	「はじめに」「第11章:援助の実験場としてのバングラデシュ」『開発援助とバングラデシュ』アジア経済研究所	1998
書籍(分担執筆)	「回遊する市—曜日市のシステム」鳥居高編『発展途上国の市場とくらし』明石書店	1997
	「人々の生活に届く援助とガバナンス」『アジ研ワールド・トレンド』(22)pp.24-27	1997
書籍(編著)	「まえがき」「第1章:援助実施における現地行政の役割」「第7章:母子保健・人口計画プロジェクトと現地行政」『援助の実施と現地行政』アジア経済研究所	1997
	「農村開発援助において女性を組織化する意味(講演録:セミナー「女性に配慮した組織化活動の育成—住民参加型国際協力を考える—)」	1997
	『平成8年度女性に配慮した組織化支援検討事業報告書』国際農林業協力協会	1997
論文	「UNDP人間開発報告1996-果てなき二重螺旋のフラストレーション」『アジ研ワールド・トレンド』(18)pp.47-48	1996
	「進展するイエメンの「改革プログラム」—その目的と背景—」『現代の中東』(20)45-64	1996
	「開発エッセイ 援助機関と社会学の関係—日本の現状について」『開発援助研究』3(1)188-190	1996
書籍(編著)	「まえがき」「序章:本書のねらい」「第4章:開発援助と社会学」『援助研究入門』アジア経済研究所	1996
	「援助研究のテキスト」「援助の社会的影響を解明する」「援助研究の目指すもの」『アジ研ワールド・トレンド』(11)	1996
	「シバの女王の国—イエメン」月刊『GIO』1996年2月号	1996
	「内戦から経済改革へ—イエメンは今」『季刊アラブ』(73)	1995
書籍(分担執筆)	「第4章第6節イエメン「教育開発」の実態」「第4章第7節 エリトリアの開発と教育」『開発と社会:教育を中心として』アジア経済研究所	1995
編著	「まえがき」「エグゼクティブ・サマリー」「第1章:内戦後イエメンの経済・社会状況」「第2章:1994年内戦の経緯と背景」	1995
	『イエメン内戦:その背景と今後の展望』(トピック・レポートNo.6)アジア経済研究所	1995

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
論文	「援助にともなうスポイルとジェラシー」『国際開発研究』(4)9-16	1995
	「開発援助になぜ「社会的側面」が重要なのか(開発と援助を考える<特集>)」『経済セミナー』(482) 22 - 27	1995
書籍(編著)	「はじめに」「第1章:「社会の固有要因」とはどのようなものか」「第2章:援助にあたって考慮すべき固有要因」「第6章:固有要因を把握する方法」 『援助と社会の固有要因』アジア経済研究所	1995
書籍(共編著)	社会開発研究会編『入門社会開発』国際開発ジャーナル社	1995
書籍(共編著)	「第4章 これから評価をする人のために」アユスNGOプロジェクト評価法研究会編『小規模社会開発プロジェクト評価』国際開発ジャーナル社	1995
	「ベールがさえぎるもの」『アジア研ワールド・トレンド』(6)pp.67-70	1995
	「モカ・マタリの国—イエメン—」『コーヒー文化研究』(2)pp.33-46日本コーヒー文化学会	1995
	「栄華よ再び～アデン自由港化計画」『中東協力センターニュース』1995年1月号	1995
書籍(対談)	「開発援助の論理回答」梅棹忠夫『地球を舞台に—ボーダーレス時代をよむ』日本放送出版協会	1994
論文	「マレーシアの開発戦略転換—「脱ブミプトラ政策」の形成過程—」『アジア経済』35(9)49-74	1994
	「南北統合プロセスとしてのイエメン内戦」『海外事情』42(12)69-85	1994
	「複雑な背景をもつイエメン南北紛争」『外交フォーラム』1994年8月号	1994
	「イエメンは内戦から新たな統合へ移れるか—戦局の行方と今後のシナリオはこうだ」『世界週報』75(24)64-66	1994
	「7つの顔をもつ都市—イエメンの首都サナア」『季刊民族学』18(3) 59 - 73	1994
書籍(共編)	海外コンサルティング企業協会『発展途上国の社会開発ハンドブック』海外コンサルティング企業協会	1994
書籍(分担執筆)	「イエメン—名づけの思い」松本脩作他編『第三世界の姓名』明石書店	1994
書籍(分担執筆)	「イエメン共和国—人類最古の墓地の話」小島麗逸編『アジア墳墓考』勁草書房	1994
書籍(単著)	『イエメン—もうひとつのアラビア』アジア経済研究所	1994
書籍(編著)	「まえがき」「序章:「援助の社会的影響」研究の位置づけ」「第1章:「援助の社会的影響」へのアプローチ」 「第5章:援助の社会的影響のサインとしての摩擦・軋轢」『援助の社会的影響』アジア経済研究所	1994
書籍(分担執筆)	「IV 中東 4 イエメン ターバンとヤーバーン」『「きもの」と「くらし」: 第三世界の日常着』アジア経済研究所	1993
書籍(論文)	「社交—イエメンの場合」山内・大塚編『イスラームを学ぶ人のために』世界思想社	1993
論文	「第1回統一イエメン国会選挙」『現代の中東』(15)16-28	1993
	「独立エリトリアの課題」『アフリカレポート』(17)21-24	1993
書籍(分担執筆)	「V.近代化の影で—中東諸国 コラム—近代化の陰で・・・ヤヒヤじいさんの嘆息(イエメン)」 『発展途上国の環境問題—豊かさの代償・貧しさの病』アジア経済研究所	1992
書籍(分担執筆)	「IV 中東 4 イエメン 外食産業の流行らぬわけ」『「たべものや」と「くらし」: 第三世界の外食産業』アジア経済研究所	1992
	「イエメンの道—幸福のアラビアの歴史をつくった街道図会」『季刊民族学』16(3)6-23	1992
	「「国民的出稼ぎ現象」の社会・経済的影響—北イエメンの20年」『国立民族学博物館研究報告』17(2)369-408	1992
書籍(分担執筆)	「経済成長実績で安定多数を確保—マレーシア総選挙」『アジアトレンド1991— I 』	1991
書籍(分担執筆)	「脱ブミプトラ政策への胎動: 1990年のマレーシア」『アジア動向年報1991年版』アジア経済研究所	1991
書籍(分担執筆)	「日本とマレーシアの経済協力に関わる認識ギャップ」『国別経済協力—マレーシア』アジア経済研究所	1991

形式	タイトルおよび掲載誌・発行元	発行年
書籍(分担執筆)	「南北イエメン統合への動き」『中東レビュー1990年版』アジア経済研究所	1990
書籍(分担執筆)	「第五次五ヶ年計画とNEP」『国別経済協カ-マレーシア』アジア経済研究所	1990
書籍(分担執筆)	「「経済」に乗ったマハティール政権：1989年のマレーシア」『アジア・中東動向年報1990年版』	1990
書籍(分担執筆)	「IV 中東 2 イエメン・アラブ共和国 出稼ぎ土産に日本車を」『「のりもの」と「くらし」-第三世界の交通機関』アジア経済研究所	1990
書籍(共著)	「家は城なり」堀井健三他編『「すまい」と「くらし」-第三世界の住居問題』アジア経済研究所	1989
書籍(分担執筆)	「クアラルンプールの暑い夏」『アジアトレンド1989-IV』アジア経済研究所	1989
	「サレハ政権の正統性」『中東レビュー1989年版』アジア経済研究所	1989
書籍(分担執筆)	「東マレーシアの経済現状」『経済協カ効果研究-マレーシア』アジア経済研究所	1989
	「カート社会・経済学」『中東協カセンターニュース』1988年11月号	1988
書籍(分担執筆)	「サウジアラビアの近代化と正統性」宮治一雄『中東の開発と統合』アジア経済研究所	1985
書籍(分担執筆)	「1984年のアラビア半島諸国」『アジア・中東動向年報 1985年版』アジア経済研究所	1985
書籍(分担執筆)	「南北イエメン統合と地域大国・超大国」『変貌する中東の政治構造:オイルショック後の10年』アジア経済研究所	1985
書籍(分担執筆)	「湾岸首長国の開発戦略を探る(3)カタール」『アジアトレンド1984・冬号』アジア経済研究所	1984
書籍(分担執筆)	「湾岸首長国の開発戦略を探る(2)アラブ首長国連邦」『アジアトレンド1984・秋号』アジア経済研究所	1984
書籍(分担執筆)	「湾岸首長国の開発戦略を探る(1)バハレーン」『アジアトレンド1984・夏号』アジア経済研究所	1984
書籍(分担執筆)	「北イエメン経済の現状と展望-出稼ぎ経済とブームの終わり」『アジアトレンド1984・春号』アジア経済研究所	1984
書籍(分担執筆)	「1983年のサウジアラビア、アラビア半島諸国：歩み始めた「ファハド路線」」『アジア・中東動向年報1984年版』アジア経済研究所	1984
書籍(分担執筆)	「1982年のアラビア半島諸国：湾岸4カ国の経済停滞」『アジア・中東動向年報1983年版』アジア経済研究所	1983
書籍(分担執筆)	「サウジアラビア-緊縮型予算の意味するもの」『アジアトレンド1982・夏号』アジア経済研究所	1982
書籍(分担執筆)	「サウジ外交の積極的展開：1981年のアラビア半島諸国」『アジア・中東動向年報1982年版』アジア経済研究所	1982